

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
15	山下いづみ（19）	<p>1. 富士山とエベレスト、世界に誇る山をつなぎ交流することについて</p> <p>今年10月、富士宮市で富士山とエベレストをつなぐプロジェクトの一環として、エベレストの山々や少数民族の暮らしを撮影した写真展が開かれた。富士山とエベレストを結び、将来的に国際交流を視野に入れた写真展で、当日は、在日ネパール国大使らが訪れ、日本語学校の生徒たちによるネパールの踊りなどが披露された。</p> <p>伊豆市在住の写真家の発案で、富士宮市、ネパール大使館の共催で行われた。日本一高い富士山と世界最高峰のエベレストの山を結ぶ国際交流は富士山の麓の自治体ならでは、他の自治体での開催も検討されている。富士山ネットワーク会議に所属する自治体、富士市、富士宮市、御殿場市、裾野市、小山町との連携も考えられるが、富士山にちなんだイベントや国際交流事業などで、富士山とエベレストをつなぐ写真展を進めてはどうか。</p> <p>2. 日本語ボランティアと受講生のマッチングについて</p> <p>在住外国人の生活支援の一つに日本語学習支援がある。日本語ボランティアが日本語学習を希望する外国人市民に教えている。日本語ボランティアと学習希望者がお互いに日程が合うことで大方進められている。しかし、近年では、出身国も様々で、家族単位で日本に来る人たちが多く、学習希望者も大人から子供までと幅広い。</p> <p>また、日本語習得レベルもいろいろで、同様に日本語ボランティアのキャリアも様々である。そこで、ボランティアの方々がより活動しやすくなるよう、また、希望者の日本語習得が円滑に進むように、日本語コーディネーターを導入して、日本語ボランティアと受講生のマッチングをしていくことが必要だと考える。</p> <p>そこで、以下質問する。</p> <p>(1) 今後、ますますニーズが多くなっていくと予想される日本語学習支援を今まで以上に有用にさせるためには何が必要だと考えるか。</p> <p>(2) マッチングに日本語コーディネーターを活用する考えはあるか。</p> <p>3. DV加害者対策に関する情報収集・調査の進捗状況について</p> <p>第三次富士市DV対策基本計画が令和4年度より開始された。加害者更生プログラムの調査・研究の取組を課題として挙げている。DV防止法第25条では、国、地方自治体に対して加害者の更生のための指導方法等の調査研究の推進に努めることを規定している。</p> <p>内閣府男女共同参画局から、令和2年度「配偶者暴力に係る加害者プログラムに関する調査研究事業」事業報告書が出ている。その中で加害者プログラムの試行実施を行い、その</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨	答 弁 者
15	山下いづみ（19）	<p>内容が公表されている。  そこで、以下質問する。</p> <p>(1) 富士市では、今までどのように情報収集を行い調査をしてきたのか。</p> <p>(2) 国で出された報告書や他自治体、民間の活動を参考に、加害者プログラム検討委員会の設置をしてはどうか。</p> <p>(3) DVを未然に防ぐ予防教育講座を展開してはどうか。</p>	市長 及び 担当部長